

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
--	---	--

○「一人一人の児童生徒の尊重」の項目の保護者の「3、4」の評価は昨年度の87%から91%に4ポイント向上した。校務支援システムを活用し、情報を共有化の中で校内支援委員会、生徒指導推進委員会の機能が充実し、課題の早期発見、早期対応が進み、それが保護者のプラス評価につながったと考える。しかし、約1割の児童、保護者が一人一人を大切にされた対応ができていないと感じているということを謙虚に受け止め、関係機関と連携しながら対応力を高めていきたい。●「道徳・心の教育の充実」については、通信等で学習内容や子どもの様子を伝える取り組みを行うことで、家庭と連携していきたい。

### ②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
---	--	---

【学校から】○「授業力向上」については、教職員の100%が「3、4」の評価をつけているが、それに比べて児童と保護者の評価は低い。保護者より児童が低いのは、児童から保護者へと授業の様子が伝えられるからである。教職員から「子どもはよく見ている。」という声も上がっている。この結果を教職員が厳しく受け止め、教材研究など事前の準備を充実させていく必要がある。●次年度は、研究部から学校で統一したためあてカードやまとめカードを出し、「ためあて」「まとめ」を徹底した授業を進めていくことから着手したい。○「ICT活用」については、電子黒板やタブレット端末の導入もあり、保護者の注目も高くなっている。保護者の「3、4」の評価が90%を下回っていることを踏まえ、次年度は意識して活用していく必要がある。また活用に関しては、使用ルールを定め、児童とも共通理解の下で進めていく必要がある。●教職員間で実践紹介などの場を設け、学級格差、学年格差がないように学校全体として取り組んでいきたい。自主研究発表の場でもICT活用にて特化した授業を公開したいという意見もあった。

### ③健やかな体を育む教育の推進

<h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<p>【学校から】○保護者、児童、教職員ともに80%の達成率ということで、3者に認識の差はない。○適度な運動については、長縄や体力向上旬間などのきっかけがあると違ってくる。元気に遊ぶ子は多いが、高学年は忙しく、外に出られない状況もある。日常的に運動している子の把握も必要である。○食については、残菜も少なく、好き嫌いをなく食べている。食育ノート等にまた取り組んでいきたい。○一番問題なのは睡眠である。就寝時刻が遅くなる原因として、「家庭の時間帯が遅くなっている。」「ゲームやテレビ、スマホの長時間使用」「過度な習い事」などが考えられる。家庭と連携していかなくては解決しない問題なので、啓発についてももっと工夫していく必要がある。●次年度は、「就寝時刻」を学校保健委員会のテーマとして年間を通して取り組んでいきたい。特に、保護者の参加を促し、啓発に努めていきたい。</p>
--	---

<h3 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	

【学校から】○児童理解やいじめ対応で教職員と保護者の評価に開きがある。保護者との連絡を密に行う必要がある。学校で問題行動があった場合に保護者へ連絡を取ることが多いが、普段から児童の「よさ」について連絡することも必要である。●週に1度は保護者に「よさ」を伝える取り組みをされている学級もあるので、次年度は、可能な限り児童の「よさ」を伝える機会を増やし、話しやすい雰囲気づくり、相談しやすい体制づくりに努めていきたい。

<h3 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>11 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②最適な学習環境の整備</h3> <h4>12 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
--	---

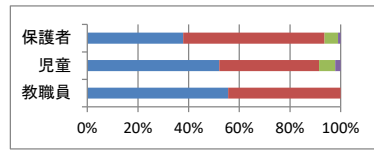
【学校から】○「3、4」の評価は、保護者95%、児童90%、教職員100%と高い。避難訓練や集団下校、安全教室、日常指導などによって、児童の意識も少しずつ上がってきていると思われる。今後とも、工夫して取り組んでいきたい。●自転車で乗る場所やヘルメット着用、学年のルールについてはもう少し徹底していきたい。

【学校から】○「3、4」の評価は職員と比べ、保護者85%、児童80%と少し低い。これは、校舎が古いことの影響が大きいと思われる。特に6年教室は、引き戸や窓の開閉が重いなどの使いづらさがある。●安全点検の徹底とともに、修繕等の検討が必要である。

### ③家庭・地域社会との連携強化

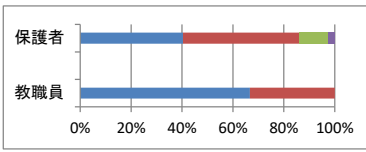
#### 13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



#### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

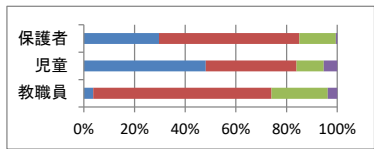


【学校から】○学校から保護者へは、学校便り、PTA総会、懇談会などを活用し、事あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式・集会等で伝えてきた。また、学校長が掲げる重点努力指導事項が職員の意識に浸透し、具現化されてきたと実感する。そのため、保護者・児童・教職員とも「3」「4」の割合が昨年より増えている。更にわかりやすく伝える努力を続けていきたい。

### ④本校の教育

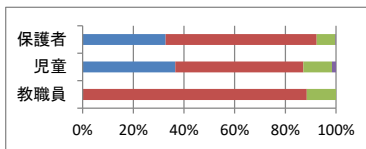
#### 15 1

子どもは、進んであいさつをしていると思いますか。



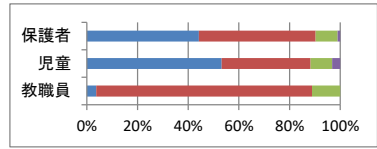
#### 16 2

子どもは、「壺川小の学習」（学習の決まり）を身に付けていると思いますか。



#### 17 3

子どもは、食事や睡眠をしっかりとり、外で元気よく遊んでいると思いますか。



【学校から】○昨年度の学校評価の「よい」の割合は児童92%、保護者80%、教職員52%であった。この結果を児童に提示し、3者のずれについて考えさせた結果、児童は相手意識を持ったあいさつのあり方を探り始めた。そして児童はその難しさに気付いたと思われる。○高学年では「立ち止まってあいさつ」などの取り組みが進んできたので、保護者や教職員の評価は上がってきたと考えるが、教職員はまだ現状に満足していない。●次年度も地域の方や来校者へのあいさつの仕方などを検討させるとともに、さらに相手意識を持った言葉遣いやあいさつのあり方を考えさせ、学年に応じた実践につないでいこうと考えている。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 教育目標・方針については、さらに分かりやすく、学級・学校便り、PTA新聞、地域諸団体の会合などあらゆる機会を通して情報発信を行う。
- 次年度は自主研究発表を予定している。毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、研究部から学校で統一したためあてカードやまとめカードを出し、「めあて」「まとめ」を徹底した授業を進めていく。
- 道徳授業の学習内容や子どもの様子を発信したり、可能な限り児童の「よさ」を伝えたりする機会を増やし、話しやすい雰囲気づくり、相談しやすい体制づくりに努めていく。
- 学校保健委員会のテーマを決め、年間を通して取り組んでいく。特に、保護者の参加を促し、啓発に努めていく。
- 地域の方や来校者へのあいさつの仕方などを検討させるとともに、さらに相手意識を持った言葉遣いやあいさつのあり方を考えさせ、学年に応じた実践につないでいく。
- 自主研究発表の場でもICT活用にて特化した授業を公開し、教職員間で実践紹介などの場を設け、ICT活用で学級格差、学年格差がないように学校全体として取り組んでいく。

### 学校関係者評価

- 他の学校と比べると、朝から運動場で元気に遊んでいる子どもが多いように思う。校外でも「立ち止まってあいさつ」してくれる子どもが増えてきている。言葉づかひもよくなってきた。
- 学習発表会では、教師と児童の思いが一体となっていることが感じられ、とても感動した。以前は表現の苦手だった子どもが成長していて嬉しく思う。
- ICT活用をはじめとして様々な活動での時間数等の学級間格差を埋めてほしい。